

第二章

第四節

江戸時代の旅行

～お土産の一番人気はお薬だった～

江戸時代、庶民の旅には厳しい制限がありました。しかし、信仰の旅と湯治の旅だけは特別に許されました。

「一生に一度はお伊勢参り」という言葉が残っているように、この時代の長旅は一大イベント。江戸から伊勢までの往復には2か月ほどの旅程が必要で、食事やお土産にかかる費用は、現在の2～3百万円相当だったとか。仲間内で旅費を出し合い、代表者が全員の分まで代理で参拝に出かける、という形が一般的でした。

旅のお土産で一番人気だったのが、「お薬」でした。お世話になった人々の人数分を買い込んでも荷物にならず、実益もあったからです。



江戸時代初期の医療技術は、主に薬剤の生成でした。原料には、植物、動物、鉱物などが使われ、その生成方法を体系化した学問は「本草学」と呼ばれました。

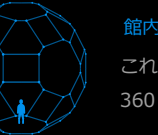
1607年※に「本草綱目」(中国の本草学史上、量・質ともに最も充実した薬学の書籍)が日本に伝わり、徳川家康に献上されたのをきっかけに、日本の本草学が発展していったと言われています。

※諸説あります

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** › <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介しますデジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.